

会 議 録

会議名	令和4年度 第1回山形市少年自然の家運営協議会
開催日時	令和4年7月20日（水）10:00～11:30
開催場所	山形市少年自然の家 研修室
主催	山形市少年自然の家
出席者	出席委員 櫻井 順一、栗田 和真、辻原 吉子、黒沼 末八、三須 洋子 奥山 竜士、奥山 健悦、齋藤 和夫 欠席委員 横倉 明、鹿又 源州
事務局	金沢 智也 教育長、高橋 一実 教育部長 少年自然の家 小関 仁美 所長 山口 雅和 副所長 伊藤 義文 副所長 森山 真澄 指導主事 横山 誠 主幹
議題	令和3年度事業報告・施設利用報告 令和4年度事業計画・施設利用予定 施設整備の状況
資料	令和4年度 第1回山形市少年自然の家運営協議会 資料
作成者	主幹 横山 誠

会議経過

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 運営協議会長あいさつ
- 4 委員及び事務局紹介
- 5 協議

少年自然の家条例施行規則により、齋藤和夫会長を議長に選任

- (1) 令和3年度事業報告について
- (2) 令和3年度施設利用報告について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 新型コロナウイルス感染症の状況で厳しい状況にあることは理解できた。新たな試み「冬の自然を味わおう」に31名もの参加者があったが、その内容はどのようなものであったか。

事務局 ラングラウフスキーの道具とコースを利用して、自然の中で楽しさを味わっていただく機会としての企画であったが、したところであるが、多くの方から参加いただいたところである。

委員 近年のキャンプブームの流れとして、ラングラウフスキーをやってみたい人も結構いるのではと思う。そのような方たちに楽しさを提供する機会を増やしてもらえたらと考える。

事務局 一度経験してもらえばリピーターになっていただけている状況がみられている。ラングラウフスキーの貸し出しも年々増えてきている実感がある。

委員 コロナの影響で「指導者講習会」が中止となったことや宿泊利用ができなかったことで苦労したのはどのような点であるか。

事務局 通常は2、3ヶ月前におおよそのプランを立て約1ヶ月前打合せを行う流れであるが、コロナ感染症の状況を見ながら何度もプランの変更する必要が生じており、現場の先生にも負担がかかった。指導者講習会を行う場合は同日利用する学校同士でプログラム内容の調整をしてもらったが、講習会ができないため自然の家主導でプログラムの割り振りをせざるを得なかったところがあった。事前打ち合わせの際にできる限り丁寧に打合せを行い不安なく研修できるよう努力しているところである。宿泊利用ができなかったことについては、泊なしで二日連続の日帰り利用や日帰りだが夜まで活動するなど短時間で十分な活動ができるよう工夫されている。

議長 県内の他の自然の家との情報交換は行っているのか。

事務局 コロナの前は県内4か所の施設と持ち回りで1泊の情報交換を行ってまいりましたが、昨年度は日帰りでの情報交換を行い、各所の状況などについて意見交換を行っている。やはりどこの施設も困っているとのことであった。

委員 障がい者事業所である「こんにやく道場」との連携について詳しく知りたい。

事務局 市の障がい福祉課とも協議し、市の就労支援の一環として販売する機会を設けさせてもらっている。サービスセンターには食堂も自動販売機もないため、冬季の来場者に喜んでいただいている。

委員 「雪椿」の保護について考えを伺いたい。

事務局 雪椿の群生地については自然の家の敷地として下草の刈り払い等適切に管理しており、園内園路の木道については市観光戦略課が維持管理しており、こちらからも要望を伝えて取り組んでいきたい。

委員 なかなか木道の修繕も進まない状況もあるが、コロナが収まったら地元としてもミズバショウや雪椿の鑑賞会などができればと考えている。

委員 7月末に予定されている「モルック大会」とはどのような内容になるのか。

事務局 「モルック」は近年人気が出てきているニュースポーツで、点数の書かれた12本の「モルック」に「スキトル」を投げ、倒した数字や本数で得点をあげていく競技です。県モルック協会からも自然の家の環境に合っているとされている。すでに多くのチームから参加を受け付けております。→「モルック」の実物を見せて説明
当所にはフライングディスクのコースも常設しており、モルック協会やフライングディスク協会とも連携して事業を進めている。

(3) 令和4年度事業計画について

(4) 令和4年度施設利用予定について

事務局より、資料及びパワーポイントを用いて説明

委員 コロナの中苦労して事業をされているが、コロナがないと工夫できなかったことなどもあると思われる。利用する子供たちのため、前に進む意味でもコロナ対策に気を付けて事業を実施していただきたいと思います。

委員 コロナによる制限が多い中、工夫して事業に取り組んでもらっている。中学校は

5月頃に1年生がクラスづくりで利用することが多かった。コロナの影響で行事を中止してしまうと、元に戻すのは容易ではないが、校長会などの場面でアピールしていきたい。また、自然体験的なものの他に中学校向けに探究的、コミュニケーション的なプログラムもあるとより中学校へのアピールとなるのではないか。また、11月頃に生徒会役員の入替えがあるのでリーダー研修などでの利用も考えられるのではないか。

事務局 中学校の利用は春先の短い期間に集中し、また人数も多くなるため、クラス単位や午前と午後に分けた活動の提案や、学校へ出向いての指導などの提案をしていきたい。

委員 小学校で6月の利用時に他校と重なったこともあり、コロナ対策で体育館や研修室にシュラフで宿泊した。災害時の避難所を体験したような活動となったが、このようなプログラムもありではないかと感じた。児童に聞いてみたが、自宅以外に初めて泊まった子が結構おり、思い出に残る価値のある体験となった。

議長 コロナ対策として現在の県や市教委の方針はどうなっているのか。

事務局 今年度は4月当初に市教委より通知された方針と県の施設の運営状況をもとにどこまでの活動が可能か判断して活動を行っている。今後また通知等が出たならその内容に基づいて活動内容に反映していく考えでいる。

(5) 施設整備の状況について

事務局より、資料を用いて報告。

意見等なし

5 閉会